

アンドレイ・ググニン Andrey Gugin, piano

2022年よりロシアを去り、現在はアムステルダムに居を移し演奏活動を展開している。カステリスキー、ナウモフ、ゴルノスターエワに学ぶ。2013年のベートーベン国際2位、2014年ジーナ・バッカウアー国際優勝、2016年シドニー国際優勝、2023年ドイツピアノ国際アワード、2024年ドバイピアノ国際優勝などのコンクール歴を有す。

ヴェルビエ音楽祭、ルール・ピアノ音楽祭やドブロブニク夏の音楽祭、上海音楽祭にも出演して来た。

ググニンは2018年にハイペリオンレーベルのピアノ・クラシックスシリーズのために録音を果たしたほか、デロスレーベルにショスタコーヴィチのピアノ協奏曲集、およびワディム・ホロデンコとのデュオなどを録音してきている。ショスタコーヴィチの録音はスティーヴン・スピルバーグの映画「ブリッジ・オブ・スパイ」にて用いられた。そのほかロシア、オランダ、クロアチア、オーストリア、スイス、アメリカにおいてテレビやラジオのために演奏している。

リサイタル、室内楽、オーケストラとの共演でウィーン楽友協会、ニューヨーク・カーネギーホール、シドニー・オペラハウス、モスクワ音楽院大ホール、マリインスキー劇場、パリ・ルーブル美術館などで演奏。またロシア、アメリカ、フィンランド、オーストラリア、クロアチアそして日本でマスタークラスを開催してきた。

そのほかヴェルビエ音楽祭、ルール・ピアノ音楽祭、マリインスキー国際音楽祭、ドブロブニク夏の音楽祭、上海音楽祭、ザグレブ夏の夜音楽祭などに出演している。

2023年2月のシルヴェストロフの曲を中心としたウクライナのヴァイオリニストとのコンサートツアーでは、多くの方々、マスメディアから注目を浴び、その様子はNHKの「おはよう日本」にも取り上げられた。2023/24シーズンには、ニューヨークのバード音楽祭、ドイツのフーズム音楽祭への復帰、オーストリアのザルツブルクとリンツでのリサイタル、日本ツアー（東京、広島、高崎でのリサイタル、名古屋フィルハーモニー交響楽団とのラフマニノフのピアノ協奏曲第2番）、スペインツアー（マドリードの国立音楽堂にて、オルケスタ・クラシカ・サンタ・チェチーリアとのベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番）、ポルトガル、シンガポール、台湾、オーストラリアでのリサイタル、シドニーとメルボルンでのリサイタル、そしてアウトウエスト・ピアノ・フェスティバルの芸術監督を務めた。2025年にはパリのサル・コルトーで演奏し好評を博す。文字通り世界を飛び回っている演奏家ピアニストである。

中島 結里愛 Nakashima Yulia, piano

2009年、岡山県出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校1年生。これまでにモスクワ音楽院教授を始め、多くの著名教授のマスタークラスを受講。第25回ショパン国際ピアノコンクール in Asia、第14回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan、第20回大阪国際音楽コンクール等の最高級で史上最年少受賞。昨年より各地でソロ・リサイタルを開催、ポーランドにてワルシャワ交響楽団と共演。